

## (9) 四国



四国地域では、景気は持ち直している。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっているが、持ち直しの動きもみられる。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている。

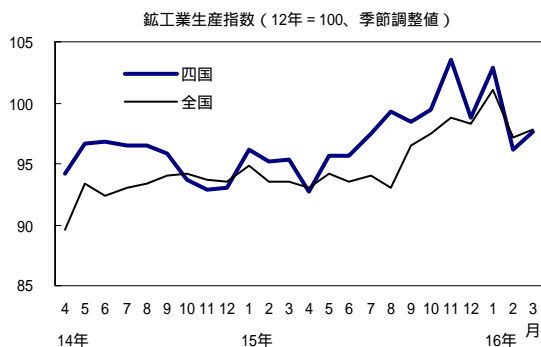
### 前回調査からの主要変更点

	前回（平成 16 年 2 月）	今回（平成 16 年 5 月）	
鉱工業生産	増加	おおむね横ばい	
個人消費	おおむね横ばい	おおむね横ばいとなっているが、持ち直しの動きもみられる	
住宅建設	大幅に減少	増加	

## 1. 生産及び企業動向

### (1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

パルプ・紙は、新聞巻取紙や情報用紙が増加しており、四半期で見ると1年ぶりに増加に転じている。食料品・たばこは、主力の冷凍調理食品を始めとして、全般にBSEや鳥インフルエンザの影響はあまりみられず、おおむね横ばいで推移している。電気機械は、リチウムイオン蓄電池やデジタルカメラが減少したため、5四半期ぶりに減少に転じている。化学は、中国・台湾向け繊維・樹脂原料の輸出が好調であり、3四半期連続で増加している。一般機械は、化学繊維機械や船舶用のクレーンなどが減少したため、1年ぶりに減少に転じている。



(備考) 平成 16 年 3 月の四国は速報値。

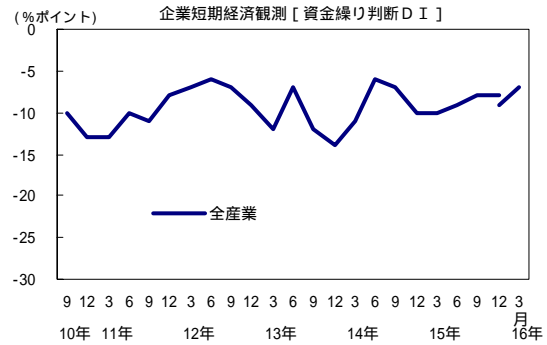
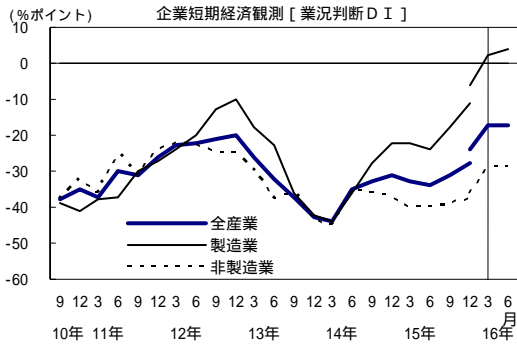
### 域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期
パルプ・紙	13.3	0.0	2.2	0.7	0.3
食料品・たばこ	13.3	2.5	0.5	0.2	6.2
電気機械	12.8	14.4	18.4	20.6	45.7
化学	12.7	0.5	6.4	7.3	10.0
一般機械	11.3	6.9	6.1	13.6	4.4
鉱工業	100.0	2.2	1.7	3.4	5.8

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

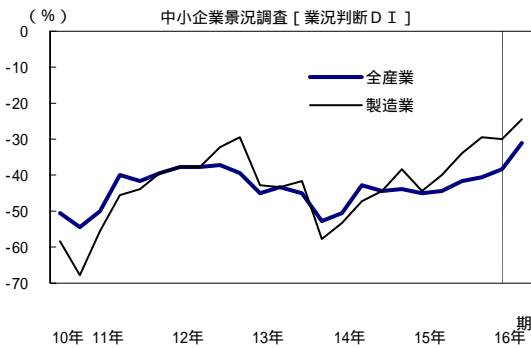
2. 1~3月期は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ縮小している。  
企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。16年6月は予測。  
なお、15年12月分については新・旧基準の値を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
なお、15年12月分については新・旧基準の値を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。16年 期は見通し。

#### 景気ウォッチャー調査 (4月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「製造業の回復とともに、循環型社会の取組によるユーザーの動きが活性化しており、新たな仕事も出てきた (一般機械器具製造業)」など「やや良くなっている」とする回答が多くみられた一方で、「県外に受注先がある企業についてはやや回復の兆しがみられるが、県内を中心に事業をしている取引先については、回復の兆しが全くみられない (金融業)」など、「変わらない」とする回答もみられた。

(3) 15年度の設備投資は前年度を上回る見込みとなっている。

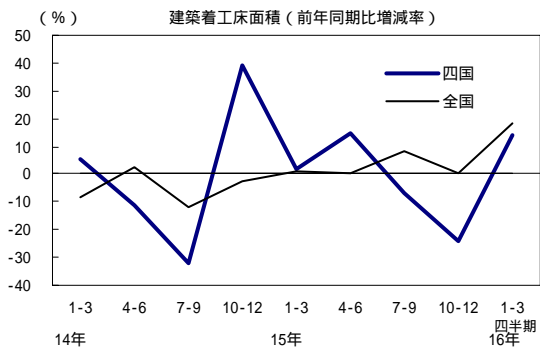
#### 企業短期経済観測調査 [設備投資 (3月調査)]

(前年度比増減率、単位：%)

	15年度実績見込み	16年度計画
全産業	5.2[3.5]	7.1
製造業	6.2[3.6]	0.7
非製造業	4.5[3.5]	12.3

(備考) [ ]は前回 (12月) 調査結果。

15年度実績見込み及び16年度計画とともに、調査見直し後の基準による。



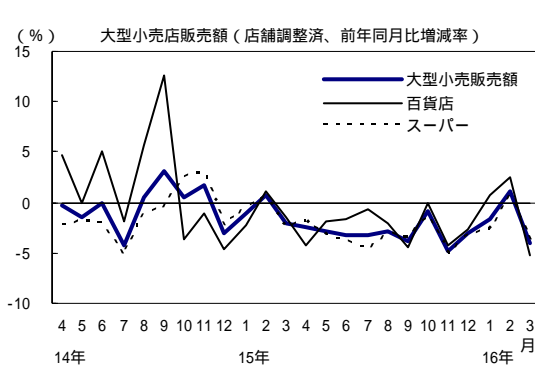
## 2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっているが、持ち直しの動きもみられる。

大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、1月は衣料品にクリアランスセール効果の持続がみられなかったものの、福袋、身の回り品のセールによる婦人靴、及び美術工芸品などの高額商品が好調であり、11か月ぶりに前年を上回った。2月はうるう年効果に加え、中旬以降の気温が平年に比べ高く推移したため、春物衣料品を中心に好調であり、前年を上回った。3月は昨年に比べ休日が3日少なかったことに加え、気温の変動が大きく、春物衣料品や身の回り品が低調であったことなどから、前年を大きく下回り、四半期でも前年を下回った。なお、日本百貨店協会によると、四国地区の4月の売上高は前年同月比で0.4%の減となっている。スーパーは、2月にうるう年や曜日要因によって12か月ぶりに前年を上回ったが、BSEや鳥インフルエンザ発生の影響による肉・肉製品の買い控え傾向が続いたため、四半期では前年を下回った。景気ウォッチャー調査(4月調査)[家計動向関連D I(現状判断)]

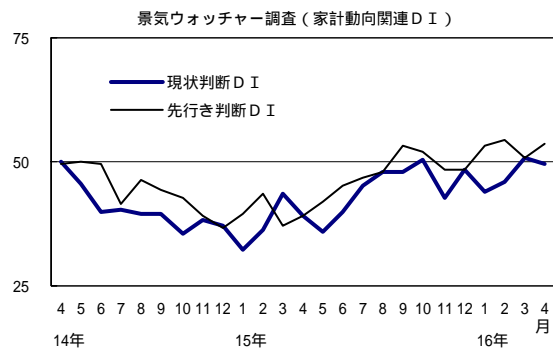
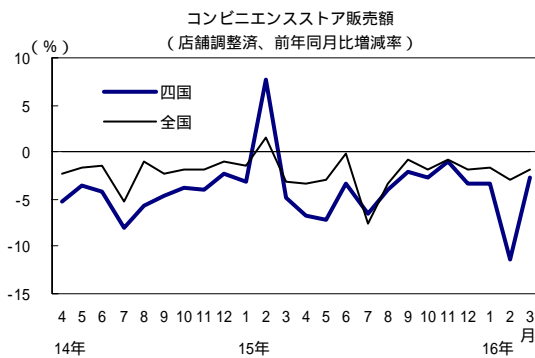
「装飾品及び絵画関連が好調に推移したことから、売上高は前年度を上回った。しかし、前月同様に、ファッション関連商品が苦戦し、ブランド商品群も前年を若干割り込んだ。また、来客数は前年を下回っている(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



(前年同期比増減率、単位：%)

	15年4-6月	7-9月	10-12月	16年1-3月
大型小売店	2.9	3.3	3.0	1.7
百貨店	2.6	2.2	2.4	1.0
スーパー	3.0	3.7	3.2	2.0
コンビニ	5.8	4.3	2.4	5.8
景気ウォッチャー	38.4	47.0	47.2	46.9

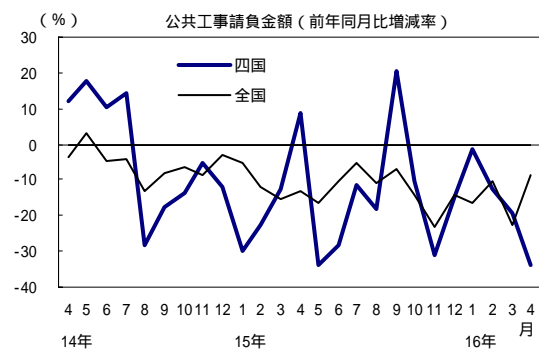
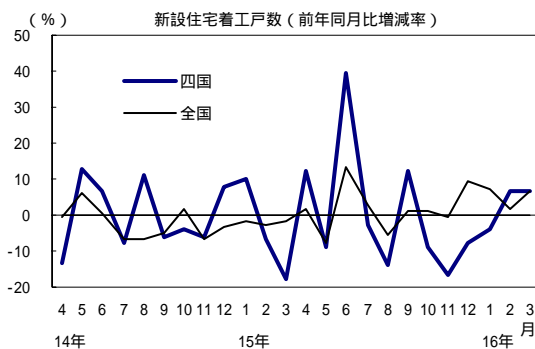
(備考) 1. 大型小売店及びコンビニ販売額は店舗調整済。  
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設は増加している。

持家は前年を下回ったものの、貸家、分譲が前年を上回ったことから、全体でも増加している。

(3) 公共投資は15年度累計で見ると前年度を下回っている。

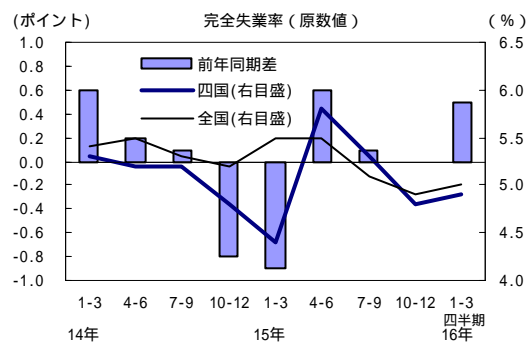
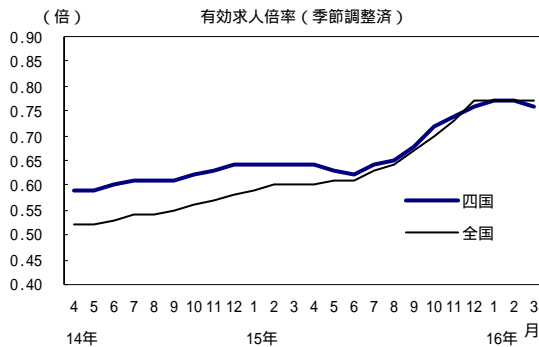


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査(4月調査)[雇用関連(現状判断)]

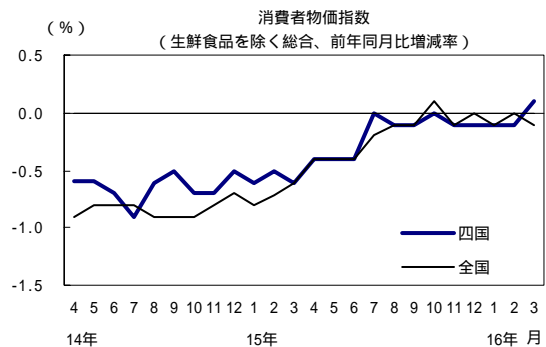
「パートを含む新規求人は、前年同月比で若干増えたが、臨時や期限付き求人の増加によるものである。一方、新規求職者も2か月連続で前年比増となり、有効求人倍率は前月比減となった(職業安定所)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	15年4-6月	7-9月	10-12月	16年1-3月	16年4月
倒産件数	149	115	89	106	33
(前年比)	1.4	20.1	40.3	12.4	45.0
負債総額	817	487	263	322	119
(前年比)	116.5	58.7	3.7	8.1	78.9



景気ウォッチャー調査(4月調査)[合計D I (特徴的な判断理由)]

<現状>

・4月からの消費税総額表示で、客は価格が高くなったという認識を持ち、買上点数が少なくなっている(スーパー)

<先行き>

・クライアントの中で、造船、海運を中心に、景気が急速に回復してきており、この影響が3か月後には他の業種に広がる(公認会計士)

